『國民新報』1939年11月26日

[主張]朝鮮文學の新傾向

　のが『日本にいたの』をスローガンとして、をしたのはになこと、にるべきことである。つてはしいをつたが々まれることであらうが、らばそのしいは、どんなにつてはならないか、どんなにはねばならないか、とふことがのになるである。

　づ、つてはならないのは、である。には一イデオロギーがつて、もは、のをえて、にされたかのに、てるもなくはなかつた。つてかゝるの、には、このイデオロギーのであつて、それはににつた、をしたりでなく、にのかられたであつた。かゝるや、それにしたののは、わがのにるりでなく、にのにはぬものである。であるから、のは、にかゝるイデオロギーからしなければならない。

　二にがしなければならないは、にしては、の、をばもそのものゝくせ、のするき、にしては、、、ではなく、をるがきなをることである。のにいて、かゝるをることは、にのであつて、そのにすべきであらう。なんとなれば、をゐてのは一、くてをすことにぎないが、のをりたはとをして、十百萬のをすことになるからである。

　三につてならないは、一をするきのである。一はにわがのである。であらうと、なるものであらうと、にするものはされるがない。

　、せねばならぬのにつてののがまつたである。のをしたものでなければならぬ。つてはのをしてり、一、のも、よりいへののであることをしたものでなくてはならぬ。してのきしきをし、されたるをふものでなくてはならぬ。

　かゝるこそ、がつである。